



7 知っておきたい！ ブラジルと日本の不妊治療の違い

ブラジルと日本の不妊治療の現場には、①女性の年齢、②麻酔の使用、③胚の染色体検査の可否、④卵子提供制度という四点で大きな違いがあります。以下に両国での違いについて詳しくご紹介します。

●女性の年齢

日本では不妊治療を受ける女性の約65%が40歳を超えています。一方、ブラジルでは40歳を超える患者は約40%にとどまり、比較的若い世代の受診者が多いのが特徴です。

●麻酔の使用

体外受精の際の麻酔の使用方法について、ブラジルでは必ず麻酔を使用します。これは、ブラジルでは出産時にも多くの女性が麻酔を使用するように、痛みに弱い傾向があるためです。日本では麻酔を使用しない場合もあります。日本人女性は我慢強いことが多く、また一度に採取する卵胞の数が少ないことから、麻酔を使わないほうがより良質な卵胞が得られるとの論拠に基づきます。

●胚の染色体検査

胚の染色体検査について、ブラジルでは体外受精から5日目の胚を対象に、5～6個の細胞を採取して染色体検査を行うことが可能です。この検査により、ダウン症の有無や流産しやすい胚、着

床できない胚などを事前に把握できます。しかし、日本やフランス、ドイツではこの検査は認められていません。日本では検査の正確性が97%であることから、誤診の可能性があるとしています。なお、検査技術は年々進歩しており、15年前の正確性は70%、10年前は85%であったことから、今日では飛躍的に精度が向上しています。



《人間の染色体》



《染色体検査をするための胚》

●卵子提供制度

卵子提供の制度も国によって異なります。ブラジルでは卵子バンクが認可されており、患者は容易に卵子提供を受けられます。一方、日本では卵子バンクは認可されていません。そのため、日本の女性が日系人の多い北米の卵子バンクを利用するケースも見られます。

このように、ブラジルと日本の不妊治療の現場には明確な違いがあり、それぞれの国の医療文化や制度が影響しています。

＊『フェルチクリン』の中野英二医師に解説していただきました。

フェルチクリン

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

E-mail: contato@fertilin.com.br



@dr.raulnakano



dr.raulnakano



@fertilinoficial



www.fertilin.com.br



11 99666-1455